

巻頭特集

ヤマトグループの障がい者雇用 誰もが働きやすい企業を目指して

2022年度障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

「人は自立して生活することで幸せを感じられる」
東京会場

2023年度 ヤマト福祉財団助成金決定一覧

助成先レポートVol.44

NPO法人どうで 夢工房どうで(奈良県山辺郡山添村)

地域の資源・魅力を武器に

みんなを巻き込んで村を盛り上げたい





公益社団法人やどかりの里 理事長
やどかり出版 代表 増田 一世

日本中に 精神医療改革の うねりを



Profile

1978年明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業後、やどかりの里研修生となり、1979年から職員。1985年やどかりの里理事。1989年やどかり出版代表。1997年精神障害者福祉工場「やどかり情報館」を開設。2001年やどかりの里常務理事、2020年からやどかりの里理事長。精神障害者とともに働きながら、地域づくり、人づくりに注目した事業展開を行う。日本障害フォーラム幹事、日本障害者協議会常務理事他

国連障害者権利委員会

「総括所見(勧告)」を追い風に

2022年8月、スイスのジュネーブにある欧州国連本部で障害者権利委員会による日本審査が行われました。権利委員会との建設的対話を行う政府代表団28人、そして日本からの傍聴団は100人を超え、私も傍聴団の一員として建設的対話を見守っていました。

権利委員は18人、日本の担当者は、ヨナス・ラスカスさん(リトアニア)とキム・ミヨンスン(韓国)。この2人を含め権利委員の皆さんは、日本の実情をよく理解していただき、障害者権利条約は「私たちのことを私たち抜きに決めないで」の姿勢が貫かれ、障害のある人や関係者の報告・意見を重視します。権利委員からは、日本の精神医療のあり方について、核心を突く質問が続きました。残念ながら日本政府代表団からは精神医療改革への意志は示されませんでした。対日審査の最後にキム・ミヨンスンは、涙ぐみつつ「日本の政府報告と障害者団体から聞く実態には大きな乖離がある。人生をかけて権利のために一心に取り組んできた障害のある人たちと政府は連携をとっていくこと」と語り、拍手が鳴りやみませんでした。

そして、9月9日に公表された日本に対する「総括所見(勧告)」。精神科病院での無期限入院の継続などに懸念が示され、非自発的入院や治療を可能にする法律の廃止、精神医療の抜本的改革が求められました。長年、さいたま市にあるやどかりの里(精神障害のある人の地域支援団体)で精神障害のある人たちと共に働き、活動してきた私にとっては、この勧告を追い風に、抜本的な改革が進まない日本の現状を大きく変革したいと思いを強くしました。その矢先です。精神科病院での虐待が内部告発され、問題の多い病院と知りつつ、行政も患者さんを送り込んでいた「滝山病院事件」が大きく報道されました。鍵のかかる病棟の中で、いつ出られるとも知れず、人間らしい扱いをされていない状況は滝山病院だけではないでしょう。座しては何も変わらない……日本中に精神医療改革を求める大きなうねりを起こしていかなければなりません。

CONTENTS

表紙写真

接客をはじめ宅急便の受付を担当する濱谷秀平さん
(ヤマト運輸株式会社 赤坂1丁目営業所)

03 巻頭特集 ヤマトグループの障がい者雇用
誰もが働きやすい企業を目指して

14 助成先レポートVol.44
NPO法人どうで 夢工房どうで(奈良県山辺郡山添村)
地域の資源・魅力を武器にみんなを巻き込んで村を盛り上げたい

10 2022年度障がい者の働く場パワーアップフォーラム
「人は自立して生活することで幸せを感じられる」
東京会場

16 このまちで、働いています。障がい者のクロネコDM便配達事業
働くことで、自信がついていった。ここは仕事を楽しむ職人工房。

13 2023年度 ヤマト福祉財団助成金決定一覧

18 夢へのかけ橋実践塾



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

誰もが働きやすい企業を目指して

ヤマトグループの障がい者雇用



法定雇用率が段階的に引き上げられ、2026年には2.7%になります。ヤマトグループでは2023年2月現在、雇用率2.88%、3,625名の障がいのある社員が働いています。

前半では山内理事長と小菅副社長による「ヤマトグループの障がい者雇用について」の対談をお送りします。後半の障がい者が働く「現地レポート」からは、『どんな仕事があるか』を明確にした採用活動を行うことが、障がいのある方の就活の背中を押すという姿が浮かび上がってきました。



山内雅喜 公益財団法人ヤマト福祉財団 理事長

ヤマトグループの

障がい者雇用3,625名

山内雅喜理事長（以下、理事長）

ヤマトグループの障がい者雇用率は2.88%に達し、引き上げ水準をすでに超えています。

実際にはどのような職場、職種で障がいのある方が働いていらっしゃるのですか？

小菅泰治副社長（以下、副社長）

昔はベース店（ハブとなる物流ターミナル）での採用が中心だったのですが、現在では町中の営業所で働かれている方も多いです。

理事長 そう聞くと、一般の方は配達をしているのかなと思うかもしれませんが、実際はどのような業務に携わっているのでしょうか？ 具体的な例があれば。

副社長 営業所では、お客様と直にやりとりする、ゲストオペレーターと私たちが呼んでいる荷受け業務の仕事に、障がいのある方がかなり多く働いています。

理事長 すると、お客様に対応する仕事だったり、お預かりした荷物の梱包補助やそれを裏へ運んだり、伝票のやりとりだったり…。営業所での業務を細かく切り分けて、その中から障がいのある方一人ひとりの特性に合った仕事を担当していただいているということでしょうか？

副社長 そうですね。どんな仕事か

任せられるのか、細分化した業務の中から、どの部分を担っていたのかを事前にしっかりと定めて、取り組んでもらっています。

昔は宅急便の業務そのものを一人のセールスドライバーでこなしていましたが、現在では稼働別仕分けの分離など工程別での考え方になっています。

理事長 この工程別は長時間勤務の解消や希望する時間で働きやすくなったたり、障がいのある方にとっても、わざわざベース店まで通勤せずとも地元に通勤が増えるといったメリットが生まれるわけですね。

副社長 健常者が障がい者かといったことはあまり意味がなく、細分化された業務の中から、その方その方に合った業務に就いてもらう。自身の仕事に明確になると達成度合いもはっきりと確認できるので、ご本人のやり甲斐にもつながるようです。

地域とそこに暮らす人々を思う気持ち、共に働くという意識は浸透している

理事長 ただ役割分担や連携を考えると、営業所内で理解やコミュニケーションがしっかりと取れていないと難しいと思うのですが、いかがですか？

副社長 そこは分け隔てなく会話ができると思っています。

理事長 全国で3000超の職場があるわけですから、障がいの有無にとられず、みんな働いていこうとい

う気持ちで、社員一人ひとりが持つことが大事ですね。

副社長 みんなそれなりに意識を持っていて感じています。ヤマトグループとして経営理念、企業姿勢に謳っているだけでなく、日々そのような話が口の上りしますので、22万人という大きな数の社員ですが、かなり浸透しているのではないかと思います。

理事長 夏のカンパでは労働組合員一人ひとりが寄付をしていただき、その支援にとても感謝しています。宅急便は、地域の生活や経済に根ざして成り立ってきたビジネスなので、地域に対する思いや貢献という気持ちが強いんですね。

副社長 地域に根ざすという意識は各社員が持っていると思います。全国規模の会社で、日本国民すべての方がお客様ですけど、そうしたお客様の中には障がいのある方をはじめ、さまざまな背景を持った方がいらっしゃいます。そうした方々と日々、接していることが社員のマインドに影響を及ぼしているのでしょう。

理事長 日本全国に965万人の障がい者がいて、その割合は13人に1人というのが実態ですから、各セールスドライバーが担当するエリアの中にも、障がいのある方が多くいらっしゃるはずなんです。

先日、車いすの方を町中でお助けしているセールスドライバーの動画が、SNSに上げられて話題になり

誰もが分け隔てなくいっしょに働く—。 より良い企業、社会の実現を目指して 今できること

障がい者の法定雇用率が、段階的に2.7%まで引き上げられます。
そうした状況下にあって、ヤマトグループでの障がい者雇用の現状と、
この先の目指すべき姿について、
小菅副社長を招いてその展望を伺いました。



ヤマトホールディングス株式会社
代表取締役 副社長執行役員

小菅泰治

ました。
副社長 多分あれは、彼の自発的な行動だったのではないのでしょうか。とくに会社として、こういうときには何をしなさいと言っているわけではないので。まったくもって自然な動きだったんだろうと思います。

障がい者雇用の推進者・相談員を 社内のシステムとして整備

理事長 そういった心持ちの部分と同時に、それぞれ特性を持つ障がいのある方に働いていただけるよう、とくに工夫している部分はありますか？
副社長 まずはその方の障がいについて、しっかりと理解することが大事です。そこで障がいのある社員に寄り

添う存在が必要という話になるんですが、各主管支店に2名任命されているのが「障がい者雇用推進者」です。その名の通り、支援学校や職業訓練所などとも関係を持って該当地域で障がいのある方の雇用を支援していく役割で、定期的に全国の推進者が集まり、情報共有しながら切磋琢磨しています。

それともう一つ「障がい者職業生活相談員」という者が現在74名います。この連合体で全国を網羅しています。

理事長 そうすると各地域の主管支店を中心としながら、雇用をサポートしたり、勤務するうえで個別に相談に乗ったりできる形になっているわ

けですか？

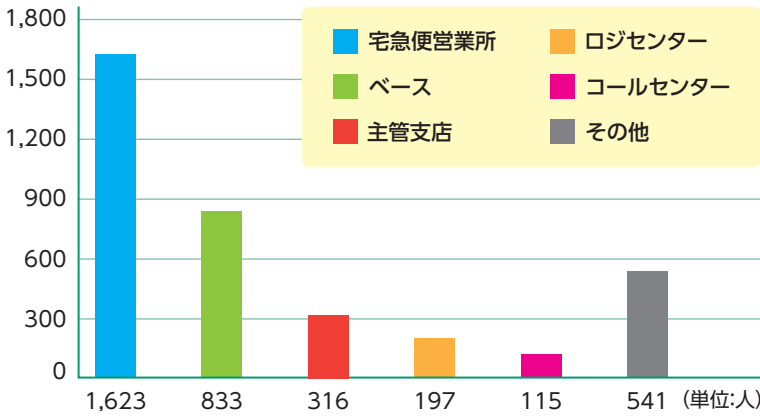
副社長 はい。相談員は高齢・障害・求職者雇用支援機構（JEDD）が実施する認定講習を受けた社員が選任され、現場での支援と相談の窓口になっています。じつは私もかつて相談員をしました。

ただし、主管支店に一律的2名の推進者というのは、障がい者雇用を促進していくうえで改善の余地があると考えていて、より適切な配置をしたいと思います。

大切なことは誰もが働きやすい 企業に成長していくこと

理事長 前述のように障がい者の法定雇用率を2.7%に国は引き上げ

職場別の障がいのある社員数

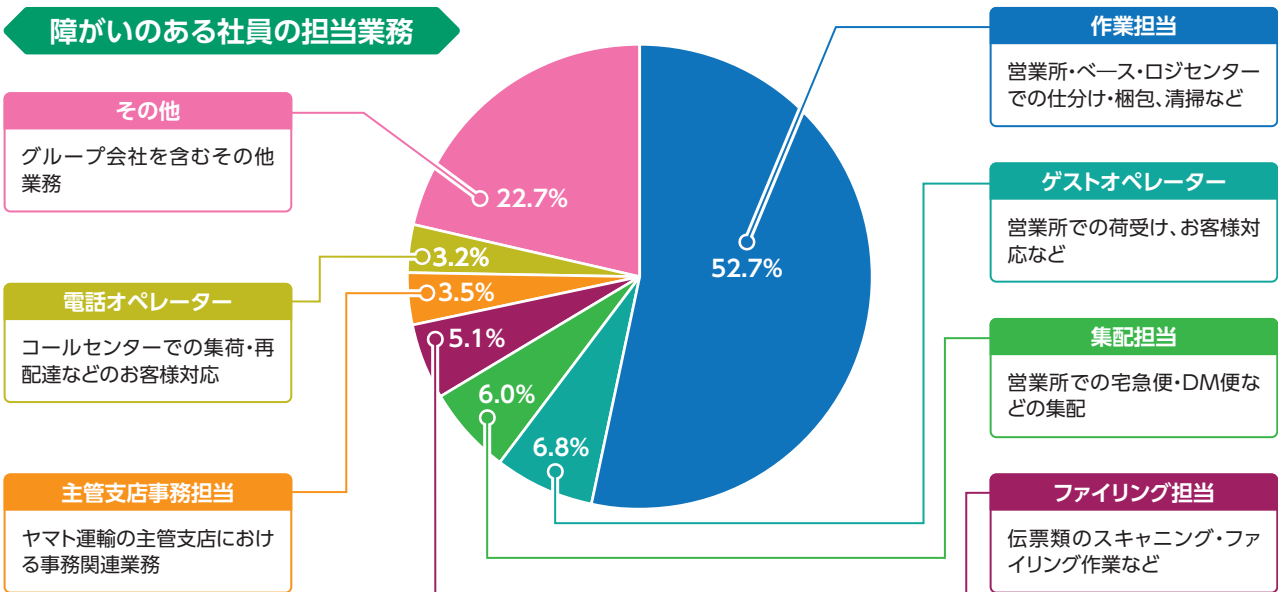


| 基本データ | |
|--------------|----------|
| 法定労働者数(換算人数) | 111,304名 |
| 障がい者雇用人数 | 3,625名* |
| 障がい者雇用率 | 2.88% |

(2023年2月 現在)

※ 週20時間未満社員637名を含む。法定基準に基づく換算人数は3,202名。
(2024年からは、週10時間以上20時間未満勤務社員も、0.5人として算定されます)

障がいのある社員の担当業務



ます。ヤマトグループはすでにそれを超えているわけですが、今後グループとしてはどのような方向性をお考えなのでしょうか？

副社長 正直言って、法定雇用率自体を強く意識しているわけではありません。法定雇用率に換算されない20時間未満の社員の障がい者雇用も率先して行っていますし、クロネコDM便の配達も全国で千人を超える方をお願いしていますが、これは作業所への委託契約で雇用率に算定されません。でもクロネコDM便は障がいのある方に非常に向いた、良い仕事だと思っています。

むしろ大事なことは、障がいのある方と健常者が意識せずに共に働やすい職場をソフトとハードの両面でもより強固にしておくこと。法定雇用率のような数字はその結果ついてくるものだと理解しています。

理事長 具体的にご紹介できることは？

副社長 ユニバーサルデザインのコンサルタントを行っている企業ミライロと協力して、ヤマトグループ独自のユニバーサルマナー検定を行っています。検定の前提として障がいのある方も含めて、ありがちな困り事や適切なサポートを研修で学びます。

また、現在は大都市圏を中心に営業所の大規模化を進めています。新たに設ける営業所では、スロープや点字ブロックなどユニバーサルデザイン

に配慮した設計ガイドラインを策定しましたので、これに沿ってより人に優しい施設にしておく予定です。

変化する社会が私たちに求めるもの、真に問われる企業価値とは？

理事長 最後に、小菅さん自身の今後こうありたいという社会のイメージがあれば教えてください。

副社長 大袈裟に聞こえるかもしれませんが、日本に限らず世界中で、人と人の違いを飛び越え、分け隔てを意図しない社会にどんどん進んでいこうと思っています。そのためにも足元から一歩ずつクリアしていかなければと考えています。

理事長 分け隔てのない、共生が当たり前の社会が理想で、ヤマトグループの目指すべきところというわけですね。

副社長 近年は、経済的な利益とか売上だとか、財務的な数字だけでなく、企業は評価されなくなってきました。むしろ重視される点は、世の中にその企業がどれだけ貢献しているかにシフトしてきています。

地域に貢献したい、みんながしっかりと働いていこうという気持ちを社員も十分に抱いていると思いますので、グループとしてもそうした思いを結集して、より良い企業、より良い社会の実現を目指したいと思います。

理事長 今日はありがとうございました。

ヤマトグループで活躍する 仲間に聞きました

業務を明確化し、その役割を果たせるかどうか、障がいの有無にとらわれずに皆で働ける企業へ——。ヤマトグループで働く障がいのある社員の職場を訪ねました。ご本人に加え、上司や同僚、推進者、相談員の方々にも伺ったお話のエッセンスをご紹介します。

羽田ロジセンター(東京都大田区)

現場ノート

しっかりとした作業設計で職場が好きと言える環境に

医薬品のカタログを在庫管理し、製薬会社のMR(医療情報担当者)様宛に発送している部署です。製薬会社では、これまで全国に分散していた在庫の一元管理ができ、MRの方にとっては、自宅や最寄りの宅急便営業所を受け取って、病院への営業に回るすることができます。

高羽さんは、羽田ロジセンターに5人いる障がいのある社員の一人です。ウェブ上の発注を確認し、必要な冊子、部数をピックアップして梱包・発送するところまでを、一般社員とまったく同様にこなしています。

採用は別部署で行われていますが、販促チームでは配属された方の能力を見て業務を決める一方で、どの案件においても、帳票や手順を統一化することも、機械化を進めて誰でもシンプルに作業ができるよう設計しています。



高羽優太さん
販促チーム/構内作業

入社は2007年です。得意なことは丁寧にものを持ってきて、検品することです。逆に梱包はちょっと苦手です。職場の人は分からなかったら、ちゃんと教えてくれるので優しいです。自分も分かることは教えます。

丁寧に作業して、お客様に届けることができるこの仕事が好きです。もっと仕事ができるようになりたいです。



採用物流チーム/左から川端邦彦さん、大木希美さん、横倉恵さん、小嶋美乃里さん、小山俊幸さん



販促チーム/左から相談員の高橋秀明さん、高羽優太さん、柴垣航さん

ありがたい言葉と作業の幅に感じるやり甲斐

現場ノート

人材採用支援を行う企業から委託を受け、採用物流センターとして機能しているチームです。企業の採用や研修で実施する適性検査などのマークシートや問題集を指定先へ発送。戻ってきた回答シートを採点し、結果報告まで行っています。同チーム精鋭30人のうち、3名が障がいのある社員です。上長によれば、これまで障がいのある社員とともに働いて、困ったようなことはないと言います。

最初は豊洲の人事課で社内事務をしていたという横倉さんは、2002年入社。社歴21年の大ベテランです。羽田ロジセンターに異動になった6年前から現在のチームでの業務に当たっています。回答済みマークシートの受付業務が横倉さんの主な仕事。送付元の企業や数量を確認し、採点を行う次の部署へと回します。



横倉 恵さん
採用物流チーム/事務

以前は豊洲で、ヤマトシステム開発(株)の社員さんへ給料明細を分けて発送する仕事をしていました。

この部署では、届いた採点シートを確認する以外にもいろいろな作業があって、やり甲斐があります。困ったことがあっても、みんな声をかけてくれますし、「ありがとう」と言ってもらえるので楽しいです。この仕事を続けていきたいです。

重たい荷物をボックスにきれいに詰めたときの達成感

現場ノート

仕事をするのが初めてのことで、体力の加減が分からず、早いうちに使い切って、後半使えなくなってしまうことがありました。今はだいが慣れてきました。重さを考えた積み方も分かってきて得意に。ボックスにきれいに荷物を詰めるのは楽しいです。

今5時間働いているんですけど、もっと延ばしたいと思っています。お給料を貯めて、車の免許を取るのが目標です。



佐藤 亘さん
構内作業(仕分け、清掃など)

構内作業の大事な軸だと、所長が全幅の信頼を寄せるのは、知的障がいのある2人の社員です。入社して1年9カ月とまだフレッシユな佐藤さんは、就労支援施設で一般就労に向けた訓練を積んできました。当初より勤務を1時間延ばし現在は5時間勤務。ヤマトが初めての職場です。もうお一人の服部さんは入社2年9カ月、1日7時間勤務で働いています。2人とも荷物の仕分けなどを中心に服部さん

はDM便の配達も担当。佐藤さんはクールコンテナの拭き取りや構内清掃に自発的に取り組み、励んでいます。仕事面で太鼓判を押す所長ですが、交番作成に当たっては1人だけの時間を作らないよう計画しています。特に若い佐藤さんは、トップギアでもすれば頑張りすぎる傾向があるからです。万が一、本人が困ったり体調不良になったときに、誰かが声をかけられるようにとの配慮で

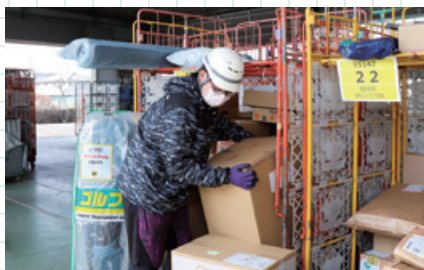
もありません。一見同じ種類の障がいでも、人によってそれぞれ相手のことをよく知ることが重要だと所長は考えられています。早朝アシストや集荷した荷物の夜の仕分けといった時間帯の人手不足は多くの営業所が抱える悩みです。所長や推進員を交えたヒアリングでは、こうした時間帯にも働く需要があることが、意欲のある障がい者に十分、伝わっていないのではないかと意見もありました。

仕事は8割が辛い(笑)。でも社会に復帰できた



服部直弘さん
構内作業(仕分け)、DM便配達

荷物を探す作業は得意ですが、指定日の仕分けが苦手で、これをいかに改善するかが悩みです。あと自転車の運転も事故を起こさないよう気をつけています。これまでに時給300円の仕事も経験しました。ヤマトで働くようになって、一人暮らしが叶いました。これ以上のことは考えたことはありません。給料泥棒にはなりたくない。お世話になっている分は貢献したいと考えるようになりました。



左から推進員の稲橋淳一さん、所長の倉橋慎太郎さん、服部直弘さん、佐藤 亘さん、作業リーダーの半田明美さん



赤坂1丁目営業所(東京都港区)

現場ノート

互いに意見を出し合える改善に前向きな職場だからこそ

ビジネス街のセンターで、GOPとして勤務する濱谷さん。聴覚障がいがありますが、周囲が静かであれば会話が困ることは概ねありません。週3日で15時から1日5時間勤務。先輩の西浦菜穂子さんが退勤する17時以降は、ほぼ一人でお店を守っています。同センターは相談しやすい雰囲気があり、困ったことがあれば話し合い、改善策を実際に試してみる点が、前職他社と違い、働きやすいと濱谷さん。主管支店の推進者も月1回の面談を、希望する障がいのある社員に実施しています。

お客様から感謝の言葉をいただくと気持ちも前向きに進み、励みになります。逆に悔しいのは、うまくいかなかったときに、もっとできることはなかったかと。僕はデザイン学を学んでいたこともあり、説明パネルの設置など思いつく改善策は提案するようにしています。それを周囲の方が前向きに聞いてくださるのは有り難いです。

お客様にとって分かりやすくするのは、障がいがあったり国籍が異なる働き手にとっても利点があります。僕は息子たちの世代が大人になったときに誰もが安心して働ける社会だと感じられるユニバーサルデザインな社会の実現に、ヤマトは貢献できる存在になっていると信じています。



濱谷秀平さん
ゲストオペレーター(GOP)

現場ノート

障がいの有無を越えて正社員にぜひ挑戦したい

2017年からパート社員として働く川崎さん。かつて旧埼玉支店・同業務を5年ほど担当していた経験者です。通勤距離と体力的な問題で退社しましたが、通いやすい川口駅前のコンタクトセンターでの採用をネットで見つけ、再応募しました。このコンタクトセンターは、宅急便をはじめとする荷物の集荷・再配達やその他お問い合わせの電話に対応する専門部署です。

昨年3月からは、センター勤務は月に数日ほどで、基本は自宅でのリモート勤務による受電に挑戦しています。上司や同僚の顔が見えない点は不安ですが、気軽に電話したりチャットで相談できるため孤立感はないそうです。むしろ利点としては電話に集中できるほか、通勤による身体への負担も少なく、午前と夜といった分割したシフトも組めるのは本人にも会社にもメリットとなっています。



川崎梨華菜さん
オペレーター

足が悪く片杖なので悪天候に傘を差して通勤するといったことの負担が大きかったです。この仕事は幅広い年齢層からご連絡をいただき言葉遣いを学べ、クレームも最後には「分かったよ、ありがとう」と言って、電話を切っていただけるとやり甲斐を感じます。当時、女性のセンター長が親身に相談に乗ってください、この会社だったら、また同じ業務でも良いかなと思えました。自分は恵まれていると感じますが、障がいのある人でも正社員に気軽に挑戦できる環境やキャリアアップのモデルがあったらうれしいです。

できることは限られていても会社にはしっかりと貢献したい

現場ノート



荒川嘉通さん
リーダーエキスパート

出版の仕事をしてきた荒川さんは26年前、過労で駅ホームからの転落事故に遭い、両足が義足に。その後、義足生活者向けの情報誌発行を計画していましたが、東日本大震災の影響を受け、企画は頓挫してしまいました。気を取り直し、同年、ネットで見つけた北東京コールセンターのアルバイトに応募し入社しました。

2年後には新たに発足した川口のコンタクトセンターへ。現在はリーダーエキスパートとして、各オペレーターのサポート・管理を担当しています。勤務はほぼ椅子に座ることなく受電状況につねに気を配り、指示出しやエスカレーションしたクレームの対応に当たっています。

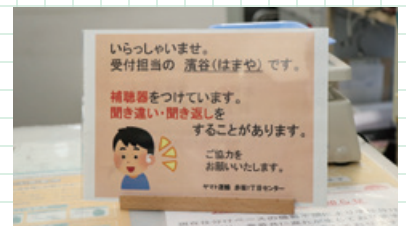
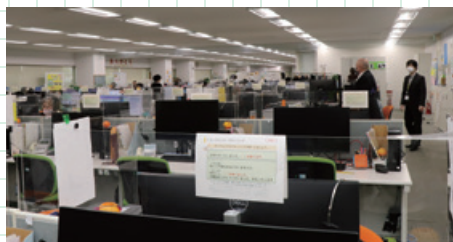
約款の細部までしっかり覚えて確認をしておかないと対応できませんので、クレームも時には大変ですが、肉体的にはそれほどでもありません。周りからも「座っていいよ」と気を遣っていただいています。個人的には、せっかくヤマトグループに働かせてもらっているのに、身体に障がいがあると、限られた仕事しかできない。そんな状況下でこの業務に正社員として働くことができ、有り難いです。昨年に還暦を迎え、あと5年です。アシスタントマネージャーの試験を受け、いまは結果待ちですが、会社にはできるかぎり貢献したいと思っています。



前列左から川崎梨華菜さん、荒川嘉通さん、後列はリーダーのみなさん、後列右から2番目が愛甲正文センター長



左から、先輩の西浦菜穂子さん、濱谷秀平さん、相談員の松川寿理さん



2022年度

障がい者の働く場 パワーアップフォーラム

「人は自立して生活することで幸せを感じられる」

東京会場

リアル会場 &
YouTube 同時配信

障がい者の働く場パワーアップフォーラム 東京会場
令和5年1月12日
主催：公益財団法人 ヤマト福祉財団

一人ひとりの力を伸ばし、
豊かな暮らしをめざした支援

支援の基本

成人者でも

1. できることはしっかりやってもらい、
できていることを維持する
2. できることを増やしていく

安定から機能向上へ

2022年度を締めくくるパワーアップフォーラムは、3年ぶりのリアル会場(東京都立産業貿易センター浜松町館)開催です。1月12日、会場には約100名の方が来場し、YouTubeでも同時配信しています。

「私たちは抜きで私たちのことを決めないで！障がいのある方たちの切なる思いを反映し作られた障害者権利条約が、2006年に国連で採択されると、会場には拍手と足踏みの音が響き渡り、人々はハグし喜び合ったのです」。

(NPO)日本障害者協議会の代表 藤井さんは、当時を振り返ります。

しかし2022年、国連が日本政府に仮採択後初の審査を行い、総括所見として発表された内容は、手厳しいものでした。

「国連は『日本の障がい者は働く場も、どこでだれと暮らすかも選択できない』と警告しています。でもこれは政府だけの問題ではありません。いまこそ福祉に携わる者が、政策動向や国際動向に関心を持ち、周りに伝え、現場で生かしていくことが必要とされているのです」。

基調講演

障害者権利条約と
ソーシャルインクルージョン



(NPO)日本障害者協議会 代表 藤井克徳さん



塾生施設で仕事の提供の仕方、働く環境作りなどを視察

「そこでは、障がいのある方に本業の仕事は難しいと、清掃作業などの仕事を担当させていたのです。私は奥西さんに「これがあなたの目

見学していきます。」
「私たちが施設外就労を始めたきっかけは、当時(株)ミルボンで生産本部長をされていた村田さん(当法人理事長の助言からでした)と奥西さん。当初、奥西さんは「ぜひ特例子会社に」と村田さんに相談し、お二人は一緒に各地の特例子会社を見学していきます。」

(社福)維雅幸育会は、上場企業4社などの請負契約による施設外就労で、A型の月額平均給料は10万円以上、B型も約7万5000円を実現しています。



(株)ミルボンで施設外就労に励む利用者さんたち

現在お二人は、企業・障がいのある方・福祉施設のみならずWin-Winになれる施設外就労をインクルーシブな働き方「M・I・Eモデル」として全国に発信中です。

指している姿ですか？品質をしっかりと確保できるように、職員も職場に入りケアしながら、施設外就労を行ってみては」と提案しました」と村田さんは振り返ります。
「村田さんからは「仕事がちんとできていけるのなら、障がいがあるから、福祉施設だからといって絶対に安売りしてはいけない」とのアドバイスもいただき、一般の請負会社さんと同じくらいの単価で仕事をさせてください」と奥西さん。(株)ミルボンでの施設外就労をモデルにして他の法定雇用率に悩む企業からも声がかかってきました。

「働く喜び」を伝え
「働く力」「態度」を育てる

夢へのかけ橋実践塾・新堂塾のアドバイザーである菅野さんは利用者さんの「働く力を育て、豊かな暮らしを実現する支援」などを塾

特別講演

知的障がい者の就労支援の在り方



(社福)武蔵野千川福祉会 理事長 菅野 敦さん

生に指導しています。
「まずは利用者さんに「働くとはなにか」を理解してもらってほしい。働くことで給料をもらい、仲間や趣味などの楽しみも増えていく。さらに社会で自分が必要とされる喜びを知れば、意欲はより高まっていきます。その上で、利用者さん一人ひとりの能力をしっかりと把握し、どんな仕事をどう提供するかを考えていきましょう。さらに、できることを増やす方法と治具や環境作りなどを工夫します。大切なのは、人との関わりを通して、学ぶ力、働く力、そして暮らす力を育てていくこと。「働く力」を伸ばすことで、やがては周りとの協調・協力できる。「働く態度」も育っていくのです」。

小倉昌男賞受賞者講演

企業の信頼が高くなる施設外就労



(社福)維雅幸育会 理事長 村田輝夫さん 統括管理者 奥西利江さん

施設外就労先の本業で活躍し、
高賃金とやりがいをつかむ

指している姿ですか？品質をしっかりと確保できるように、職員も職場に入りケアしながら、施設外就労を行ってみては」と提案しました」と村田さんは振り返ります。
「村田さんからは「仕事がちんとできていけるのなら、障がいがあるから、福祉施設だからといって絶対に安売りしてはいけない」とのアドバイスもいただき、一般の請負会社さんと同じくらいの単価で仕事をさせてください」と奥西さん。(株)ミルボンでの施設外就労をモデルにして他の法定雇用率に悩む企業からも声がかかってきました。



兵庫県「出愛いの里」

2010年に新塾塾に入った高橋さんは、単価の高いDM事業で給料増額を目指します。100件近く電話営業してやっと獲得した初の顧客は、厳しい納期に応えられず残念な結果に。

「利用者さんの働く力を伸ばし、生産性を上げることが必要だと痛感しました。そこで新塾塾長や菅野先生に学んだ方法を実践。作業工程を細かく分け、治具や機械も導入していくことで、入塾時わずか6000円だった給料を、10年後には4万5000円まで増額することができました」。



実践報告①

工賃向上を目指した10年間

(NPO)出愛いの里福祉会
障がい者支援センター出愛いの里
施設長 高橋勝茂さん



ヤマトグループ農業ボランティア

「百姓である農業にはいろんな仕事があり、自分の得意な仕事を選ぶことができる。青空の下、土に触れ楽しそうに働く利用者さんたちを、私たちは『農福師』と呼んでいます」と磯部さん。

無農薬・無肥料の自然栽培は、食べる側にも作る側にも安心安全です。しかも慣行栽培や有機栽培に比べてコストがかからない上、商品価値が高く収穫量が少なくても売上を確保できます。

「現在、自然栽培で地域活性化と障がい者の自立を目指す農家や福祉施設などの仲間が、125団体以上に拡大しています」。



実践報告②

自然栽培チャレンジ報告

(一社)農福連携自然栽培パーティ全国協議会
理事長 磯部竜太さん



おしごと発見フェア

2018年に3年計画で開始した沖縄パワーアップフォーラムは、コロナの影響を受けて思うように活動できませんでした。

「実行委員は、地道に連絡を取り準備を続け、やっと形にできたのが、働きたい障がい者と雇用したい企業を結びポータルサイト『ゆいジョブ』です」と吉川さん。

「2022年には、特別支援学校の生徒たちや就労を考える利用者さん、地元企業が参加した希望のイベント『おしごと発見フェア』を開催できました。これからは地元企業と力を合わせ、当事者の思いに応えていきます」。



実践報告③

沖縄県発 ゆいジョブ! 活動報告

(社福)若竹福祉会 就業・生活支援
課長 吉川嘉朝さん



「来場者のみなさんからシンポジストになにか質問は?」。プログラム最後のシンポジウムでコーディネータの藤井さんが呼びかけると、早速、幾人も挙手。「コロナ禍で減った仕事をどうやって取り戻しましたか?」「農地を持っていないのですが自然栽培パーティに販売として参加できないでしょうか?」

「施設外就労を行う利用者さんのメリットとは?」。

同じ福祉に携わる者の悩みに、シンポジストは自らの体験を通して丁寧に回答していきました。

山内理事長は「今日得た気づきが、今後にきっと生かせるはずですよ」と講評。なにがあっても利用者さんのためにできることを目指していく。登壇者と来場者の気持ちが一つとなり、本年度のパワーアップフォーラムは幕を閉じました。



2023年度ヤマト福祉財団助成金決定一覧

(助成金額合計：1億3,284万円)

I. 障がい者給料増額支援助成金 決定一覧

単位(万円)

| 所在地 | 福祉事業所・団体名 | 助成対象 | 決定金額 |
|------------|---------------------|--------------------------------------|------|
| 北海道阿寒郡鶴居村 | のんき工房 | 枝葉粉碎機・水蒸気蒸留器の購入資金 | 150 |
| 北海道旭川市 | ねむのきワークセンター | 給食基幹システム「ユニクルサープリック」導入資金 | 500 |
| 北海道札幌市中央区 | 共働事業所もじや | 紙枚数計算機購入資金 | 144 |
| 北海道札幌市中央区 | Charabanc at dispo. | 移動販売車両の購入資金 | 300 |
| 北海道札幌市東区 | ひかり工房 | プラスチック＆ショックフリーザー購入資金 | 257 |
| 茨城県つくば市 | さくら学園 | 昇華転写プリンターの購入資金 | 120 |
| 群馬県藤岡市 | 藤岡ふれあいセンターほのか | コンプレッサー並びにコンプレッサー室設置資金 | 60 |
| 埼玉県さいたま市西区 | あかしの森 | 食品印刷機の購入資金 | 297 |
| 千葉県八街市 | 明朗塾 | 枝豆機器の購入資金 | 230 |
| 神奈川県横浜市都筑区 | はたらく支援工房ショコラボ | レボリングパン機械の購入資金 | 315 |
| 東京都渋谷区 | 就労継続支援A型ローラズプラスII | 花卉を保管するためのフラワーキーパー(冷蔵庫)および輸送用車両の購入資金 | 353 |
| 東京都国分寺市 | ピーバス(多機能型) | プラスチック＆ショックフリーザー機購入資金 | 245 |
| 新潟県阿賀野市 | あおぞらソラシード | 電気式減圧蒸留器購入資金 | 445 |
| 福井県あわら市 | ピアファーム | 作業場の整備、資材ハウス倉庫の設置と農産物等運搬車購入資金 | 500 |
| 長野県長野市 | 信州そば工房さずな | 包丁切り自動カッター購入資金 | 212 |
| 長野県千曲市 | 満天の星 | 車両購入資金 | 345 |
| 三重県伊賀市 | ふっくりにあもモンマール | ドウコンディショナー・プラスチック・パイローラー購入資金 | 450 |
| 三重県四日市市 | 清和ワークキャンパス | フォークリフト導入資金 | 125 |
| 滋賀県東近江市 | 葉菜屋 | ドライフォグシステムの導入資金 | 340 |
| 滋賀県蒲生郡日野町 | わたむきの里第4作業所 | 穀物用遠赤外線乾燥機購入資金 | 342 |
| 兵庫県尼崎市 | チャレンジ・コヤリバ | 高温高圧洗浄機を用いた除菌作業受託の資金 | 328 |
| 奈良県御所市 | 御所園 | 製パン用ミキサー購入資金 | 412 |
| 島根県松江市 | 多機能型事業所ピー・ター・パン | パソコン制御で刺繍プリントが可能な機器の導入資金 | 270 |
| 岡山県真庭市 | ワークスひるぜん | 製粉機(臼ふるい機)の導入資金 | 377 |
| 岡山県津山市 | 青空ワークス | さつまいも等農産物6次元化機材購入資金 | 190 |
| 広島県尾道市 | 多機能事業所COR | アスパラガス栽培のためのビニールハウスと制御システム機器の設置資金 | 500 |
| 広島県尾道市 | 障がい者サポートセンターあおぎり | アップサイクル商品の製造及び販売のための器機購入資金 | 330 |
| 広島県三原市 | もりの輝舎 | 色彩選別機導入資金 | 357 |
| 広島県東広島市 | 宮領ワークセンター | 急速冷凍庫及び高機能ミキサーの購入資金 | 287 |
| 広島県安芸高田市 | ふれあいの家たんぼぼ | ペットフードを製造する機器購入資金 | 495 |
| 山口県山陽小野田市 | 多機能型事業所ジョブ・プレイス | 乗用草刈り機と畦草刈り機の購入資金 | 130 |
| 徳島県板野郡松茂町 | おりなす(なごみ) | クリーニング受注を増大するための大型洗濯機購入資金 | 100 |
| 愛媛県今治市 | エコステーションはるかす | ムクナ豆の増産・商品化に必要な資材・機材の購入資金 | 132 |
| 愛媛県北宇和郡鬼北町 | ほっとホット | 食品加工事業収入拡大用ライス盛り付け機及び食品乾燥機購入資金 | 268 |
| 愛媛県新居浜市 | 多機能型事業所すいよう作業所 | ハイブリッドラジコン草刈り機購入資金 | 250 |
| 愛媛県宇和島市 | A・I HOPE | 食品乾燥機、真空包装機等の購入資金 | 500 |
| 高知県南国市 | きてみい | トラクター及び管理機購入資金 | 150 |
| 高知県安芸市 | 多機能型事業所TEAMあき | 農機具購入資金 | 345 |
| 鹿児島県薩摩川内市 | 指定就労継続支援B型事業所すたーと | 新規事業設備資金 | 113 |

II. 障がい者福祉助成金 決定一覧

単位(万円)

| 所在地 | 福祉事業所・団体名 | 助成対象 | 申請区分 | 決定金額 |
|-------------|-----------------------------|--|----------|------|
| 宮城県石巻市 | チャイルドネットジャパン | コロナ禍からの復活!東北作業所応援市 | ボランティア活動 | 100 |
| 宮城県気仙沼市 | Beach Sports Project | ビーチスポーツで「つくる・つなぐ」共生社会 | スポーツ活動 | 81 |
| 茨城県つくば市 | ユースMDCプロジェクト | 発達障害のある若者支援事業 | 文化活動 | 100 |
| 千葉県柏市 | DEI実行委員会 | 「しあわせの森の物語」～森を舞台に繰り上げられるファンタジーパフォーマンス～(仮) | 文化活動 | 100 |
| 神奈川県横浜市神奈川区 | NPO法人中途障害者地域活動センターリワーク神奈川 | 脳卒中・脳外傷の方へ自宅に戻ってからのガイドブック | 出版 | 100 |
| 神奈川県平塚市 | 一般社団法人ALTAM | いま、気になるあのアートたち(仮) I「いま、気になる」あの人の表現 II | 文化活動 | 98 |
| 東京都目黒区 | 埼玉県若い失語症者のつどい | 第91～94回若い&第59～62回ミドル失語症者のつどい | 会議 | 10 |
| 東京都江戸川区 | 就労継続支援A型事業所東京ソレリアエンプロイメント | 見えない優しい傘出版事業 | 出版 | 100 |
| 東京都杉並区 | SuginamiShowFestival実行委員会 | SuginamiShowFestival2024 | 文化活動 | 10 |
| 東京都新宿区 | 社会福祉法人桜雲会 | 同行援護制度を周知する為に小冊子 作成配布事業 | 出版 | 100 |
| 東京都練馬区 | 子どものための音楽療法サークル「音の輪」 | 子どものための音楽療法サークル「音の輪」発足15+1周年記念行事「音の輪」音楽フェスティバル | 文化活動 | 60 |
| 東京都世田谷区 | TherapyPerformanceCircle | (定期)演奏会 | ボランティア活動 | 44 |
| 東京都世田谷区 | 社会福祉法人藍 | ユニバーサルディスコ～障がいのある方もない方も、分け隔てなく輝く時間を～ | 文化活動 | 99 |
| 東京都世田谷区 | 調布市つぼみの会 | 口唇口蓋に関する講演会の開催 | 講演会 | 25 |
| 東京都小金井市 | 小金井市重度心身障がい児子育てサークルとかるかふえ | 重度心身障害児や、そのご家族向けフォトイベント及びひかりのあそびイベント | 文化活動 | 100 |
| 岐阜県養老郡養老町 | 大垣養老高校動物科学科木曾馬班 | 地域に必要とされる障がい者乗馬を目指して | スポーツ活動 | 88 |
| 愛知県知多郡南知多町 | 字幕耳サボみいな | 字幕支援活動用機器充実及び活動範囲拡大 | ボランティア活動 | 49 |
| 三重県伊勢市 | みんなの公園つくり隊ise | インクルーシブ公園をつくろう&インクルーシブ伊勢を目指そう! | ボランティア活動 | 37 |
| 京都府京都市中京区 | なないろ会 | 障がいやDV被害などの生きづらさを抱えた女性が主体となり孤立を予防し自立力を高めるための活動 | 文化活動 | 80 |
| 大阪府泉南郡熊取町 | 視覚障がい者の豊かな暮らしを実現する研究会(ゆたくら) | 視覚障がい者の暮らしを豊かにする日常生活用具開発のための実践研究 | 研究 | 79 |
| 兵庫県赤穂市 | 赤穂精華園 | 字が読めない利用児者も楽しめる衛生面に配慮した「食育かるた」の作成と普及 | 文化活動 | 100 |
| 鳥取県鳥取市 | わんだふる(就労継続支援B型) | 障がい者と地域の方のeスポーツを活用した交流会活動～ねんりんピック出場を目指して～ | スポーツ活動 | 92 |
| 広島県広島市中区 | 特定非営利活動法人咲良の会 | 都市部ニュータウンの要支援者・要保護者等を対象とした防災・避難物資等調査 | 調査 | 70 |
| 福岡県福岡市東区 | キコエナイ×キコエル発展事業委員会 | キコエナイ×キコエル発展事業 | 文化活動 | 100 |
| 福岡県福岡市中央区 | NPO法人ももち浜ユニバーサルビーチプロジェクト | ももち浜ユニバーサルビーチプロジェクト2023 | スポーツ活動 | 100 |
| 長崎県長崎市 | NPO法人ほほえみながさき | 通院送迎ボランティア運転講習会の充実 | 講演会 | 17 |
| 鹿児島県始良市 | ゆめのわ | 発達障がい児を支える街づくりを学ぶ会 | 会議 | 81 |

地域の資源・魅力を武器にみんなを巻き込んで村を盛り上げたい

奈良県の北東部、大和高原の一角をなす山添村は、村の中央を天理市と三重県亀山市をつなぐ名阪国道が走り、週末には観光客の姿も見られます。現在3,200人ほどの村民がのどかに暮らすこの地域で、「夢工房どうで」は足かけ28年にわたる地道な活動をつづけています。

Data

NPO法人どうで
夢工房どうで
奈良県山辺郡山添村



昨年末に完成した「動物ふれあいコーナー」はエアコン付き。餌の販売数アップ、飼育員(利用者)の増員、ウサギの越冬対策と、まさに一石三鳥。餌あげ体験をする藤野奈良支部執行委員長と利用者さん



安全安心の野菜を観光客向けに

「昔からの農山村の趣きが残っているのに、奈良市内から車で30分ほどなので、『町の近くにある田舎で売れ出す』とされているんです」と、山添村を紹介するのはどうでで働いて12年目になるという下谷昇さん。

村の県立月ヶ瀬神野山自然公園はウメヤツツジの名所にして関西でも屈指の天体観測スポットとして知られています。コロナ禍で観光客が激減したのは同村も同じですが、売上回復を目指して「夢工房どうで」は、当財団の昨年度助成事業に応募し、産直施設の整備強化と農産物加工場の新設に挑みました。

お邪魔したのは2月の末。無駄遣いを避け、利用者の仕事をつくる意図もあって、できることは自分たちで工事をしてきました。お世話をされるのではなく、さまざまな背景を持った人たちが共に能力を発揮して、地域活動の担い手になることをモットーとする「どうで」らしい



赤い屋根のヤギタワーは「わんぱくどうぶつえん」のシンボル

考え方です。

厨房となる加工場は建設の大詰めでしたが、産直施設の魅力アップを狙う「動物ふれあいコーナー」は立派に完成していました。

「夢工房どうで」の主力事業は、農業や化学肥料を使わずに「土づくり」から取り組む野菜づくり。近隣のスーパーや、2015年に開設した産直施設で販売しています。2年後には産直施設に小さな動物園を設け、訪れたファミリーを楽しませてきました。

動物園の入場料こそ無料ですが、販売していた餌(紙コップ入り1個100円)の販売数アップが、ふれあいコーナーの新設で大いに期待できます。餌は他の活動で出る野菜くずのため、利益率も高く優秀な収入源です。利用者の仕事も増やせて、いいことづくめ。

2019年度は農産品や動物の餌など、直売所だけで約1600万円の売上があったと言います。利用者への給料も月3万円を達成していました。



「やまぞーえオフィス」の倉庫だった部分を、本格的な食品加工工場にするべく改築中。完成は春の予定



看板商品の一つ「ゆず胡椒」。利用者・職員・高齢農家が連携して、村の文化・味が失われることなく、収益も生んでいる



昭和女子大の学生プロジェクトによってパッケージデザインされた「大和ほうじ茶ブレンドハーブティー」。5つのフレーバーが楽しめる



事業統括 企画・連携グループ長の下谷昇さん(左)。商品・企画責任者の夏目有砂さん(右)。

コロナがリセットしたものは…

当時、「農泊事業を計画して、農水省の助成を取っていたんですが…」そんな矢先のコロナ感染拡大でした。

「都部のショッピングモールで開催された、飲食店応援企画のお弁当販売会に参加したり、換気の良いガレージでマルシェを開いてみたり、空回りもあつたとは思いますが…」

がむしやらに行動しましたが、それでも売上は2/3に落ち込みました。しかし、その一方でコロナ禍は悪いことばかりではなかったと下谷さんは言います。

「日々のルーティンの仕事がなくなつて、さて何をやるのかと見回してみたら、いろんなつながりができていたのに気づいたんです。

芋掘り体験や、地域の年配の方が先生になつて行う干し柿づくりのランチ付きイベントを実施したり、外へ出向いて販売する機会が増えたことが、お客さんやそこに来店する飲食店さん、農家の方などと改めてコミュニケーションを取るよい契機になつたんです」

目指すのは山添村のセールスマン

そうした繋がりから生まれた変化の象徴が、東京の昭和女子大学の学生プロジェクトとコラボレーションした商品開発です。

環境デザイン学科でデザインプロデュースを学ぶ学生さんたちと企画を練り、パッケージデザインを任せて誕生したのは「大和ほうじ茶ブレンドハーブティー」。山添村は古くからお茶の栽培が盛んで特産の一つでしたが、5つの風味を飲み比べできるようにすると、今年に入つて日経新聞にも取りあげられました。

村に遊びにきた同大の卒業生と知り合いになり、その関係で研究室のフィールドワークに協力するようになったのがきっかけでした。

「コロナの関係でしばらくはオンラインでのやりとりでしたが、去年初めて村でフィールドワークができるようになって」と、ぐっぐの商品・企画責任者の夏目さん。

ぐっぐの看板商品の一つ「ゆず胡椒」も、村の高齢農家との協働が生んだ逸品です。

「育てた唐辛子を塩漬けするまでならできるといっておばあさんがいて、でも柚子の収穫がお年寄りには難しく、加工するにも実から皮を剥くのが一苦労。そこで役割を分担。仕入れた唐辛子の塩漬けと柚子を調合し、瓶詰め、販売を引き受けることに」と夏目さん。

下谷さんによれば、現在ではそこから派生し

て「ゆず胡椒づくり体験」も展開しているのだとか。農泊用にと考えていた古民家を活用して一昨年からは始めたそうです。

村の宝物を掘り起して光を当ててもらう。今後は加工などの分野で外部とも積極的に協力しつつ、商品によっては海外展開にも挑戦したいと展望は膨らみます。

「一つテーマがあつて、単に商売だけでなく『関係人口』を増やしていきたいと思つていんですよ。山添村と交流を持ってくれる方たちを増やそうと。それで人口減に直面している村を元気にしたいんです」と下谷さん。

今年度から本格始動する「動物ふれあいコーナー」と「食品加工場」。その効果がぐっぐと村にどんな輝きをもたらすのか？ これからにますます注目です。

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 39

ヤマト運輸労働組合
奈良支部執行委員長
藤野 九一さん



体験を通じて自然と輪が広がれば

ドライバー時代、知的障がいの方も働く会社へ集荷へ行つて、そこでさまざまな利用者さんと接する機会がありました。「障がいを持っているよ」という先入観を抜きにみなさんと仕事をなさつていて、笑顔で対応してください。逆に気遣ってこちらの手伝いをしてくれることもあつて、「私たちもできることから始めればいんだ」と思いました。

本日もこちらにお伺いして、協力できることがあれば、それも身近なところから活動できたらと感じました。それも社員だけでなく、家族も巻き込んできたら、次の世代へと良い循環が広がっていくのかなと。家族参加もできるような「ゆず胡椒づくり」の体験会を、まずはぜひ支部で実現させたいですね。





このまちで、
働いています。



障がい者のクロネコDM便配達事業

働くことで、自信がついていった。 ここは仕事を楽しくむ職人工房。

宮城県の北西部に位置する大崎市。社会福祉法人大崎誠心会の障害福祉サービス事業所「工房パルコ」は障がい者の就労支援事業の一つとして、DM便配達事業に取り組んでいます。赤い三角屋根の玄関の横には、米粉パンの店も併設されています。

泣きながら覚えた
今では誰よりも詳しくなつて

「職員さんに間違いを指摘されると、悔しくて何度も泣きました」と少し照れながら振り返るのは、メイト歴9年になる藤原信一さん。最初は住所やポストの位置などを、なかなか覚えられなかったといいます。しかし、今ではもう職員よりも詳しい大ベテランに。メイトさんの中心メンバーとなっています。

障害福祉サービス事業所「工房パルコ」は、9年前にクロネコDM便配達事業をスタートしました。約10名のメイトさんが手分けして、自転車で近隣のエリアへ配達。今ではこのまちにすっかり溶け込んでいます。

「藤原さんは全エリアを覚えていたので、誰かが休んでもカバーしてくれるんですよ」と、職員の遠藤隼人さんも藤原さんを頼りにします。

藤原さんをはじめとするメイトさんたちはDM便配達が終わると、「工房パルコ」が地域の企業から受託するネジの袋詰めなども担当。どの仕事もテキパキこなしています。



宮城県大崎市
「工房パルコ」

社会福祉法人 大崎誠心会
障害福祉サービス事業所「工房パルコ」
2005年4月開所時からペーカリー事業、2014年1月からクロネコDM便配達事業をスタート。他にはネジや洋服の袋詰めなど、地域の企業からの請負業務も行う。

一人で配達できた自信が
他の仕事にも生きていく

メイトさんの後藤真耶さんのキャリアは丸3年。「先輩の補助をしながら仕事を覚えました。一人で配達するようになって、仕事がすごく楽しくなつた」と話します。



(上) 地図に配達先、冊数、配達経路の順番を書き込むメイトさんの藤原信一さん。地図は1週間保管し、翌週更新します。
(下) DM便を配達エリア別に仕分ける後藤真耶さん。最終チェックは職員の遠藤さんが行います。



(右上)メイトさんたちは、それぞれ好きなヘルメットを装着し、自転車で配達へ。
 (上)春は強風、冬は積雪と、一年を通して、配達には大変な日も多い大崎市。「どんな天候でも一軒一軒、丁寧に配達しています」とメイトさんの藤原信一さん。



好きなヘルメットを選んで 颯爽とまちの中へ

後藤さんは宮城県大崎合同庁舎の食堂業務委託を受けて開店した「キッチンらぼーる」での皿洗いや、段ボール工場での解体作業など、施設外での仕事にも積極的に参加。DM便配達などで得た自信をチカラに、一般就労を目指しています。

「工房パルコ」のDM便配達は、朝ヤマト運輸のドライバーが届けたDM便を、その日担当するメイトさんたちが仕分けするところから始まります。スムーズに仕分けが終わると、メイトさんたちは荷物と地図と端末を持ち、最後はヘルメットをかぶって準備が完了です。

ヘルメットを色違いで用意。「初めは恥ずかしがる人もいましたが、今ではさつと好みの色を選んでいきますよ」と職員の高橋さんは笑います。

管理者の齋藤裕美さんは「ヤマト運輸のユニフォームを着ると、ドライバーさんと同じ仕事をしているという意識からか、表情が変わります」と話します。DM便配達を通して仕事の楽しさを知ったメイトさんたちは、凛々しい表情で、それぞれ担当の配達エリアへ、颯爽と向かって行きました。

米粉のパンは やさしい笑顔の味がする

「工房パルコ」は、開所時から、米どころという地域性を活かして、「ひとめぼれ」の米粉を使ったパン製造にも取り組んでいます。最初は業者さんに指導してもらいながら、みんなで工夫を重ねていると、やがて、おいしいと評判に。

利用者さんはパンの袋詰め、シール貼りなどの他に、卵を塗るなどのパン作りも担当しています。パン生地を伸ばすことも、器用にまるめる「まるめ」という職人さんのような手仕事も、今ではお手のもの。小さなパンは、両手で2つ同時にクルクルとまるめて仕上げるほど、成長しています。

みんなで作ったパンが いちばんおいしい

利用者さんたちは道の駅、学校、保育所などへの納品も行っています。



「自分の作ったパンがお店に並んで、売れたときに嬉しい」「みんなと一緒に作ったパンをおいしいと言われる。この仕事が大好き!」。

まちの人に「おいしい」ありがとうと直接言われる数が増えるほど、イキイキと輝く利用者さんたち。一人ひとりが働く喜びと自信にあふれています。

ゆっくりと丁寧に、素早く、リズムカルに。DM便配達、パン作り、洋服やネジの袋詰めなどの仕事を、それぞれのペースで進めるメイトさんや利用者さんたち。マスクを外すと、真面目な表情から一気に笑顔が弾けます。「この仕事が好き」という思いで、今日も元気にこのまちで働いています。



(左上)パンの袋詰め、シール貼りを職員と利用者さんが協力して担当しています。

(左下、右から)パン生地を素早く成型する「まるめ」。ふんわりときれいに仕上げます。

掃除はみんなで徹底して行うので、つねに清潔。すみずみまでピカピカ。パン工房に入る際も、厳しいルールを定め、手洗い、制服、帽子など、何度もチェックを重ねています。

毎日、20~30種類のおさまな調理パンが店頭並びます。

米粉パンのお店の看板は、笑顔のキャラクターが目印。

利用者さんの給料増額に向かって 夢へのかけ橋実践塾

コロナ禍で、約3年半を費やした第4期新堂塾、第3期楠元塾が修了しました。
これまでの学びを実践するこれからが本当のスタートです!!



経済的な自立力を備えた
新しい福祉に向かって

新堂塾4期 最終発表会

3月13~14日

3年半にわたった新堂塾が修了を迎えました。3月13日は武蔵野千川福祉会の事業所を見学、14日は最終発表会を行いました。

最終発表会では、入塾後の取り組み、成果、今後の展望をそれぞれが発表。塾生はみな、コロナ禍で落ちた売上を回復するため、営業や新規の仕事に組み込み、入塾時以上の成果を出しています。

山内理事長は「日々の仕事の中で『見る』ということを意識してください。見ることで利用者、職員の変化に気づき、数字に表れない効果が見え次に何をしたらよいか分かります」。

アドバイザーの菅野理事長（武蔵野千川福祉会）は、「みなさん、よく努力をしてくださった。今後取り組んでもらいたいのは、利用者の変化を見ること。技能面だけではなく、仕事に意欲的になった彼らが、地域の中や生活面でどう変化していくかということまで見てほしい」と、塾生に向けてメッセージを送りました。

財団から修了の結びに「一人ひとりの心に新堂塾長がいて、この学びを実践して行くことが恩返しになります」と、塾生にお伝えしました。



武蔵野千川福祉会の事業所を見学



入塾からの変化、成果を発表しました



3年半で培ったチームワークは、塾生の財産です



キャンパスの会事業所を改めて見学



成果報告



お弁当のおかずになるメニューを
実習させていただきました



塾生から感謝の花束を

楠元塾3期 卒業の会「飛躍へ！」

3月15~17日

3月15日~17日、塾長施設であるキャンパスの会（都城市）で、楠元塾3期の卒業の会を実施しました。3年半前に開講した途端、コロナ禍で売上も落ち、思うように研修もできない中、オンラインやメールを利用し、塾長や仲間と情報を共有しながらを大事にしてきました。そんな中でもみんな、それぞれの工夫や努力で、入塾時よりも確実に売上も工賃ものばしてきました。

成果報告で塾長は、「『見て楽しい、食べておいしい、価格で嬉しい』を常に頭に入れて、どんな客層に、どんなお弁当を出していけるか考えてほしい。この三つに今まで勉強したすべてが入っています。基本を忘れないで頑張ってください」と塾生にメッセージを伝えました。

オンラインで参加した山内理事長は「日々の確認を積み重ねることの大事さ、積み重ねることで肌感覚での気づきがあり、それが自分たちの感性を磨くことになります。もう一つは、失敗を恐れずやってみる覚悟を持つことです。塾の仲間がいて塾長もいる。このネットワークを財産にしてほしい」と塾生へ向けたことばで、卒業の会を締めくくりました。

農福連携実践塾 ふくしまフォーラム

2月17日

農福連携事業『ふくしまフォーラム』が郡山で開催されました。吉田行郷教授（千葉大学）の基調講演につづき、福島の実業所による実践報告・パネルディスカッションも行われました。このフォーラムに農福連携実践塾の塾生も参加。前日は（NPO）ウッドピアはなわのぶどうハウスも見学しました。



ぶどうハウスを見学



福島県授産事業振興会主催で開催された勉強会

YWF TOPICS

医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク 夢☆応援Live

2月25日

(NPO)医療的ケア児者と家族を社会につなぐネットワーク(略称:ブリッジネットワーク)が、2月25日YouTubeライブイベントを開催しました。初の公開イベントです。理事長の楠元洋子さんは、重い障がいのある子どもたちに必要なことを事業として立ち上げてきました。事業は子どもたちが教えてくれたプレゼントだとおっしゃいます。

公開イベントにはブリッジネットワークの理事をはじめ、日向市で活動する(NPO)teとteの会のみなさんが参加。ブリッジネットワークの活動は、子どもたちのケアのため自分の時間が持てないお母さんたちへの就労支援を最大のミッションとして、資格取得の支援、お母さんたちによる事業所の立ち上げ支援など活動を始めています。



「種まいて水やって自然栽培パーティ！」 試写会開催(東京会場)

3月9日



自然栽培パーティの活動を約4年かけて撮影したドキュメンタリー映画が完成。3月9日、満員のお客さまを集め渋谷ストリームホールで試写会が行われました。当日は映画に登場した農福師さん(利用者さん)や、山内理事長も登壇。山内理事長は「映画を観ていて力をもらいました。自然栽培パーティがますます広がって行くように支援をしたい」と挨拶をしました。

今後も上映会が開催されます。詳しくは自然栽培パーティのサイトをご確認ください。

カレンダー販売

伊東屋様 ヤマトグループのみなさま
ありがとうございました



山口主管支店

伊東屋様からカレンダーのご寄付をいただき、今年もヤマトグループ各社で販売をさせていただきました。今年の売上は402,727円となり、全額を(社福)ヤマト自立センターに寄付いたしました。伊東屋様、販売にご協力いただいたみなさまのご協力に感謝いたします。

ヤマト繋がるプロジェクト報告会

2月1日

ヤマト繋がるプロジェクトは、(NPO)アクションポート横浜で活動する大学生と、ヤマト運輸労働組合青年部が企画・協力して、障がい者施設のみなさんに楽しんでいただくボランティア活動です。2年目となる2022年度で企画・実施した活動の報告会が横浜の大倉山記念館で行われました。オンラインで参加していた青年部のみなさんは、ようやく学生や施設のみなさんとリアル対面となりました。互いに感謝状や記念品の贈呈も行われ、次年度こそリアルで参加したいと意気込みを話しています。



ゆいジョブ! 実行委員会研修in宮古島

2月10-11日



2018年パワーアップフォーラム沖縄のビジネスマッチングワークショップが前身となる「ゆいジョブ! 実行委員会」は、さらに活動を広げ離島を含めたネットワークづくりのため、宮古島研修を実施。メロンの生産、水耕栽培、草花の育苗販売をはじめパン工房・レストランを運営し、6事業所で約100名の利用者が通う(社福)みやこ福祉会、マンゴーの生産や月桃を繊維に加工しての商品作りなどを手がける(NPO)マーズを視察しました。

障がいに関して初の本格的な事典

「JD障害と福祉事典(仮称)」編纂始まる

日本障害者協議会(JD)が当事者視点と現場の実態を踏まえた「障害と福祉」に関する総合的な事典を出版します。障害に関して初の本格的な事典であり、障害者権利条約に沿った目次と用語で構成されています。障がい分野の政策や社会通念の刷新等に寄与するこの事典の出版をヤマト福祉財団は支援しています。

超絶技巧、未来へ！ 明治工芸とそのDNA



大竹亮峯(木彫) 月光 2020年



前原冬樹(木彫) 《一刻》スルメに茶碗 2022年



本郷真也(金工) 《Visible01境界》(部分) 2021年



池田晃将(漆工) 百千金字塔善合 2022年



稲崎栄利子(陶磁) Euphoria 2023年

DATA

- 開催場所 ▶ 長野県立美術館
- 開催期間 ▶ 2023年4月22日(土)～6月18日(日)
- 開館時間 ▶ 9:00～17:00(展示室入場は16:30まで)
- 休館日 ▶ 毎週水曜日(GWの5/3は開館)
- アクセス ▶ ①JR長野駅善光寺口バス乗り場①から、アルピコ交通バス 11系統 善光寺経由 宇木行、16系統 善光寺・若槻団地経由若槻東条行、17系統 善光寺・西条経由若槻東条行で「善光寺北」下車、徒歩約3分。
②上記バス乗り場①及び⑦の善光寺経由のバス、もしくは善光寺行き「びんずる号」で「善光寺大門」下車、徒歩約10分。
③長野電鉄「善光寺下駅」下車、城山公園へ徒歩15分
※一般来館者の駐車場はございません。障がい者の方は併設の東山魁夷館北側の駐車場が「信州パーキング・パーミット制度」により使用できます。

明治工芸のDNAを受け継ぐ現代作家が集結

金属、木、陶磁、ガラスなどさまざまな素材を使って、工芸作品を手がける現代作家17人の超絶技巧作品を紹介する展覧会です。

例えば、大竹亮峯氏が1年を費やし完成させた《月光》は、木彫の花器に水を注げば花が咲く、驚きの作品。《Visible01境界》は本郷真也氏の鉄を叩いて変形させる特殊な鉄鍛金技法で、羽根を1枚ずつ重ねつけたガラスの金工。CTスキャンをするとガラスの骨格や体内まで緻密に制作されているのが見えてきます。プロボクサーからサラリーマン、東京藝術大学絵画科を卒業したという異色の経歴を持つ前原冬樹氏の《一刻》スルメに茶碗》は、1本の木から彫り出された木彫作品です。

明治工芸の「超絶技巧」を受け継ぐ現代作家の、鍛錬された日々の実践から生まれる驚くべき技が本展に集結しています。

明治工芸の逸品も併せて展覧

時代が大きく動いた江戸時代末期から明治時代。印籠や刀装具など、制作していた幕府や諸大名のお抱え職人たちが、これまで培ってきた高度な技術と感性を工芸品へと制作の場を移していきました。明治工芸はその時代に作られた精巧な工芸作品を指し、陶磁、漆工、金工、七宝、木彫など、ジャンルは多岐にわたります。明治政府の政策により、作品の多くが海外に輸出され、「ジャポニズム」と呼ばれる一大ブームを巻き起こしたのです。

本展では、明治工芸を積極的に里帰りさせ、国内屈指のコレクションを築いている、京都・清水三年坂美術館の館長・村田理如氏によるコレクションも多数展示されます。ヤマト運輸株式会社は本展作品の輸送・展示に協力しています。

| 観覧料(税込) | 一般 | 大学生 | 高校生以下または18歳未満 |
|---------|--------|--------|---------------|
| | 1,400円 | 1,200円 | 無料 |

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と付添の方1名は無料

主催 ▶ 長野県、長野県立美術館、SBC信越放送

協力 ▶ 清水三年坂美術館

企画協力 ▶ 広瀬麻美(浅野研究所)

監修 ▶ 山下裕二(明治学院大学教授)

問い合わせ先 ▶ 050-5542-8600(ハローダイヤル)

展覧会公式サイト ▶ <https://nagano.art.museum>

巡回情報 ▶ 7月1日(土)～9月3日(日) あべのハルカス美術館(大阪)
9月12日(火)～11月26日(日) 三井記念美術館(東京)
12月8日(金)～2024年2月4日(日) 富山県水墨美術館(富山)

第24回ヤマト福祉財団小倉昌男賞 募集

正賞：雨宮 淳氏作 ブロンズ像「愛」

副賞：賞金100万円

募集期間：6月1日～8月31日

ヤマト福祉財団では、障がい者の仕事づくりや雇用の創出、拡大、労働条件の改善などを積極的に推し進め、障がい者に働く喜びと生きがいをもたらしている人の中から毎年2名の方に『ヤマト福祉財団小倉昌男賞』をお贈りしています。「この人をぜひ」と思われる方のご推薦をお願いいたします。詳しくはホームページをご覧ください。また、QRコードより、第23回ヤマト福祉財団小倉昌男賞贈呈式の様子をYouTubeでご覧いただけます。



ヤマト福祉財団

検索

